

堀

信

信

2.XII.84

岡山県芸術祭参加

倉敷 **第九** 演奏会

倉敷管弦楽団第10回定期演奏会

第13回倉敷市民音楽祭

1984/12月2日(日) PM 2:00

倉敷市民会館



主催/倉敷市・倉敷市教育委員会・倉敷市自主文化事業協会・倉敷管弦楽団・倉敷市合唱連盟  
後援/岡山放送・NHK岡山放送局・山陽放送・瀬戸内海放送・岡山県郷土文化財団・中国二期会

# ごあいさつ

毎年12月になりますと我が国では、多くの都市でベートーヴェンの「第九」が響きわたります。しかし、そのほとんどは専門のかたたちが演奏し音楽好きの人々がたゞそれを坐って聴いているというものでした。

本日この「第九演奏会」では、オーケストラは、倉敷管弦楽団、独唱は地元で活躍中の声楽家、そして合唱は、一般公募を含む倉敷第九合唱団とまさに倉敷を中心とした音楽愛好者の手づくりによる「第九」が高らかに響きわたるわけであります。

従来聴く立場から演奏する側にまわられて、本日迄練習を続けられた努力がここに400人の大合唱として結実するわけで自ら音楽することの楽しさとその意義づけは、やがて市民の間にも広く浸透し、倉敷の文化をさらに豊かなものに導いてくれるに違いありません。

終りに本日のこの演奏会の御盛会を心からお祝い申し上げます。

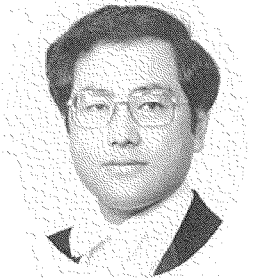
本日は倉敷第九演奏会に御来場賜わり誠に有難うございます。倉敷管弦楽団10周年記念の定期演奏会として、又市民音楽祭として倉敷市を中心とした地元の人達が力をあわせてのベートーヴェンの第九シンフォニーが演奏できるという事は、大変素晴らしい事と思っています。1974年倉敷室内管弦楽団が発足して以来楽団の10年間の歩みは、各方面からの暖かい御支援により幅広い充実した演奏活動が展開出来、その経験を積み重ねて第九の演奏会を持つに恥じない規模とレベルに到達しました。管弦楽92名、独唱4名、合唱400名による総勢約500名のステージは岡山県で未だかつてない大規模なものですが、この500名が今日の日の為心を一つにして一生懸命練習してきた成果は迫力を持ってきっと皆様心にまで響くものと確信しています。

「おお、友よ、この調べではない！もっと快い、歓びにみちた調べを歌い始めよう」

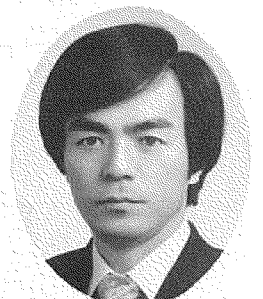
人類愛を歌い上げたベートーヴェンの交響曲第九番。私達アマチュア合唱団念願の第九演奏会が、今日ここに開かれる運びと成りましたことを、本当に嬉しく思います。今回は合唱連盟だけではなく、一般公募による合唱団員も加えて総勢400名にのぼる大合唱団を編成し、7月の結団式以来5ヶ月間に亘って練習を積んでまいりました。馴れないドイツ語とか広い音域等難しい事が多く有りましたが、団員の熱意で充分克服できたと思っています。今日は、その全てを出し尽くして、偉大なるベートーヴェンの想いを、皆様にお伝えする事ができれば幸いです。そして、倉敷で初の地元の人達による第九演奏会をやり多しものにし、これを機に、更に合唱の輪を広げたいと思っています。では最後までごゆっくりと御鑑賞下さいますようお願い申し上げます。



倉敷市長  
滝沢義夫



倉敷第九演奏会実行委員長  
倉敷管弦楽団 団長  
菊池 東



倉敷第九演奏会実行副委員長  
倉敷市合唱連盟理事長  
仁科喜代蔵

# PROGRAM

## レオノーレ序曲 第3番 作品72a

Overture "Leonore III" Op.72a

ベートーヴェン  
Ludwig van Beethoven

## 交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付」(イゴール・マルケヴィッチ改訂による Symphonie Nr.9 d moll Op.125 (新ベートーヴェン全集の楽譜を使用))

*Allegro ma non troppo, un poco maestoso*

*Molto vivace*

*Adagio molto e cantabile*

*Presto*

指揮/堤 俊作

独唱/岡崎順子(S) 虫明和子(A) 田中 誠(T) 大原正義(Br)

管弦楽/倉敷管弦楽団

合唱/倉敷第九合唱団

合唱指導/小山裕章

## レオノーレ序曲 第3番 作品72a

この序曲はベートーヴェンの序曲の中できわめて壮大であり、すぐれているとされている難曲です。中間部に大臣の到着を示すトランペットのソロは、ステージの裏で吹かれます。ある演奏会のこと、トランペット氏が、「どうせステージに出ないのだから」というわけで、普

段着のまま、ステージ裏でラッパをかまえたなら、ホールの守衛さんがとんできて、「今、演奏中ですから困ります」といって、トランペット氏の必死の説明をきかばこそ、外へつれ出してしまったのだそうです。

さて、本日は守衛さんに断わっているんでしょうかね。

## 交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付」

シラーの頌歌「歓喜に寄す」を終楽章に用いたこの壮大な「第九番」は、古今の交響曲を通じての最高峰といってよい。ベートーヴェンがこの曲を完成したのは、世を去る3年前、1824年(54才)のことだが、彼がこのシラーの“愛”と“よろこび”とをテーマにした詩に曲を付けようと考えたのは、彼がまだ故郷のボンにいた22才のころである。したがって、計画してから結実するまでのあいだに、なんと32年の歳月が流れていたことになる。

交響曲に人声を加えるということは、当時としては大冒険であったが、ベートーヴェンはその難事業をりっぱになしとげた。ロマン・ロランが「音楽と思想とは、互いに自己を犠牲にすることなしに、互いに互いを豊かにし合っている……」と述べているように、人声はオーケストラに従属することなく、またオーケストラは人声に従属することなく、人声とオーケストラは完全に融合し、一体となって、「抱かんもろ人よ、心あわせて……」とこの頌歌を盛大にうたいあげるのである。

この曲も「第五番」と同じく、暗黒から光明へという思想で貫ぬかれている。あたかも、鉛のように重く垂れ

こめている灰色の雲を突き破るかのような劇的な第1楽章、活力に溢れる第2楽章、平和な情緒にみちた第3楽章、そして最後の歓喜の大合唱、それは「不幸な星の下で生まれ」(ロラン)、運命を克服し、人生をたくましく生き抜いてきたベートーヴェンの、人生の勝利の賛歌といってよい。

この曲を聞くと、ベートーヴェンが単なる芸術家ではなく、偉大な思想家であったということがよくわかると思う。彼はこの曲を通じて、人間の生命の尊さと、平和と自由のもたらすよろこびというものを、全世界のひととに強く呼びかけているからである。

リーツラーは「大音楽家のたったひとつの作品によって、全世界が、それも、その同時代の世界ではなく、その後代の世界までが、すでに百年以上も興奮状態におかれたということは、この第九番以外には決してなかった」と述べているが、まさしくその通りである。聞くたびごとに新たなる美しさを発見し、新たなる感動をよびおこすこの不朽の大傑作は、永遠に演奏され続けることであろう。

# プロフィール



指揮/堤 俊作

1947年大阪に生まれる。幼少よりヴァイオリンを学び、1970年桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業。在学中はコントラバスを専攻し、同時に指揮を故斎藤秀雄氏に師事。1971年東京交響楽団副指揮者に就任。翌72年東京郵便貯金ホールでの東響演奏会でブルックナーの交響曲第4番他を指揮してデビュー。1973年デンマーク放送管弦楽団を指揮、ヨーロッパ楽壇にデビュー。1974年東京ユースシンフォニーオーケストラを率いてヨーロッパ演奏旅行を行い各地で絶賛を浴びる。同年ロンドンでのルパート指揮者コンクール入賞。その受賞記念コンサートでロンドン交響楽団を指揮、批評家フランク・G・バーカー氏よりデイリー・エクスプレス誌、ミュージック&ミュージシャン誌の両誌上で「未来の大指揮者」と賞讃された。1978年エルネスト・アンセルメ没後10年を記念して行われたジュネーブ国際音楽コンクール指揮部門「第1回エルネスト・アンセルメ指揮者コンクール」でスイス・ロマン管弦楽団を指揮して優勝。審査員であったオトマール・スイットナー、ウォルフガング・サヴァリッシュ、ミシェル・ブラッソン、ホルスト・シュタイン等の名指揮者たちから最高の讃辞を与えられた。1983年4月ソフィア・コンサート委員会の招きによりブルガリアを訪問、ソフィア・フィルハーモニー交響楽団、プロヴディフ・フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会を指揮、同年10月ドイツ民主共和国芸術公団の招きによりベルリン音楽祭をはじめとして東独6都市で演奏会を持ち、1984年にはフィンランドのトゥルク・フィルハーモニー、スイスのピエンヌ交響楽団、ライプチヒ・ゲヴェントハウスに客演、それぞれ大成功を収めた。1985年のシーズンにはスイス・ロマン管弦楽団、スペインのマラーガ交響楽団、ブルガリア国立放送交響楽団、プロヴディフ・フィルハーモニーに客演するほか、ブルガリアのピアニスト、イワン・ドレンニコフと共にベートーヴェンのピアノ協奏曲全集のレコーディングを開始する。現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団音楽監督・常任指揮者、桐朋学園大学講師。なお倉敷管弦楽団では第6回定期演奏会を指揮している。



ソプラノ  
岡崎 順子

岡山大学教育学部音楽専攻卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修了。矢部礼子、小島琢磨、木下武久の諸氏に師事。モーツァルト「レクイエム」「短調ミサ」、パッハ「結婚カンタータ」「コーヒーカンタータ」ベートーヴェン「第9」等にソリストとして出演。56年、59年、リサイタル開催。オペラでは「アマールと夜の訪問者」のアマール「ドン・ジョバンニ」のツェルリーナ、「海の子守唄」のしの、「魔笛」のノバゲーナ、「カルメン」のミカエラ、「ボギーとベス」のクララ役、「フィガロの結婚」のスザンナ役で出演。現在、新見女子短期大学幼児教育学科講師。中国二期会、岡山演奏家協会、岡山音楽家協会会員。



アルト  
虫明 和子

京都市立芸術大学音楽学部音楽科卒業。河本喜介・鳥井晴子・佐々木成子・矢部礼子・井上敦子・金光武義・R・ミラーの諸氏に師事。パリ・エコールノルマル音楽院留学。フランス音楽コンクール日仏協会賞受賞。リサイタル、ジョイントリサイタルをはじめ「第九」「カルミナブラーナ」等のソリスト。オペラでは「魔笛」「ボギーとベス」「アマールと夜の訪問者」「カルメン」「蝶々夫人」「フィガロの結婚」等に出演。その他様々のコンサートに客演。現在、山陽女子高等学校音楽科講師。中国短期大学音楽科非常勤講師。中国二期会・岡山音楽家協会・岡山ピアノ・声楽研究会各会員。



テノール  
田中 誠

国立音楽大学声楽科卒業。同大学院オペラコース修了。伯田好史、平野忠彦氏に師事。在学中、オットマール・スイットナー指揮によるヘンデルの牧歌劇「アチスとガラテア」のアチスでデビュー。その後もモーツァルトのオペラ「コシ・ファン・トゥッテ」「フィガロの結婚」「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」、ロッシーニの「婚約手形」ビゼーの「カルメン」に出演する。また、パッハ、ハイドゥン、モーツァルト、コダーイの宗教曲、ショスタコーヴィチのオラトリオ「森の歌」ベートーヴェンの「第九」のソリストをつとめる。現在、二期会準会員。



バリトン  
大原 正義

国立音楽大学声楽科卒業。益田通、井上貞一諸氏に師事。ヘンデル「メサイヤ」、フォーレ「レクイエム」、ハイドゥン「天地創造」、オルフ「カルミナブラーナ」、ベートーベン「第九」、等にソリストとして出演。47年リサイタルを開催。オペラでは「アマールと夜の訪問者」の王様、「海の子守唄」の網元、「ボギーとベス」のクラウン、「フィガロの結婚」のフィガロ、「仏陀」の王様役に出演。現在、中国短期大学常勤講師、山陽女子高等学校音楽科非常勤講師、岡山大学コーロ・ロータス、川崎製鉄水島混声合唱団ボイトレーナー、中国二期会々員、岡山演奏家協会々員。

## 倉敷管弦楽団

“美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を”を合言葉に専門家と高い演奏技術をもつアマチュアから構成された倉敷管弦楽団は、文化都市倉敷にふさわしい若さと情熱に満ちた楽団です。バロックから現代曲まで幅広い演奏活動で岡山県を代表する楽団として、昭和57年には岡山県文化功労賞を受賞、地方のオーケストラとしては注目されるような多彩な演奏活動で今後が益々期待されます。本年度の活動を紹介しますと

- 2月11日 「赤木元蔵氏追悼公演」(於)倉敷市民会館
- 6月2日 「玉島文化センター落成記念コンサート」

(於)玉島文化センター

7月8日 「高梁市制施行30周年記念演奏会」

(於)高梁市民体育館

8月6日 団内演奏会 (於)市民会館練習室

9月14日 「難波菊枝&倉敷管弦楽団演奏会」

(於)岡山市民文化ホール

10月14日 岡山市民合唱団鷺羽定期演奏会 賛助出演

(於)岡山市民文化ホール

12月2日 第10回定期演奏会(於)倉敷市民会館

となっています。

# 倉敷管弦楽団10年間の主な演奏記録

## ●第1回定期演奏会 (S50.12.8)

ヘンデル 合奏協奏曲 Op6-10  
 ヴィヴァルディ 協奏曲集「四季」より春夏  
 バッハ カンクォータBWV202  
 “いまぞ去れ悲しみの影よ”  
 ブランデルブルグ協奏曲第4番  
 小山清茂 弦楽の為のアイヌの歌  
 指揮/菊池 東

## ●第2回定期演奏会 (S51.11.16)

ヴィヴァルディ 2つのトランペットの為の協奏曲  
 バッハ ブランデンブルグ協奏曲第1番  
 レスピーギ リュートの為の古代舞曲とアリア第3組曲  
 ボッケリーニ チェロ協奏曲変ロ長調  
 指揮/早川 正昭 チェロ/山崎 伸子

## ●ランパルと管弦楽の夕べ (S52.9.24)

テレマン フルート協奏曲ニ長調  
 モーツァルト フルート協奏曲第1番その他  
 指揮/早川 正昭 フルート/ランパル

## ●第3回定期演奏会 (S53.1.8)

ヘンデル 水上の音楽 (ハレ版)  
 モーツァルト ヴァイオリン協奏曲第3番  
 ドボルザーク 弦楽セレナーデホ長調  
 指揮/フォルカー・レニック ヴァイオリン/和波 孝禧

## ●ゴールドブレンドコンサート (S53.11.3)

ウエストサイド物語・序曲  
 ロッキーのテーマ  
 スターウォーズのテーマ  
 フィーリング・アラモ  
 マイウェイ 他  
 指揮/石丸 寛 ゲスト/雪村いづみ

## ●第4回定期演奏会 (S53.12.10)

ブリテン シンプルシンフォニー  
 バッハ 二つのVnの為の協奏曲  
 モーツァルト 交響曲第38番ニ長調 (プラーハ)  
 モーツァルト ピアノ協奏曲第20番ニ短調  
 指揮/菊池 東 ピアノ/深沢 亮子

## ●特別演奏会 (S54.7.15)

ヴィヴァルディ バイオリン協奏曲イ短調  
 シューベルト 交響曲第8番ロ短調 (未完成)  
 ベートーヴェン バイオリン協奏曲ニ長調  
 指揮/榎本 辰郎 ヴァイオリン/水島 愛子

## ●第5回定期演奏会 (S54.12.9)

モーツァルト 交響曲第40番ト短調  
 ハイドン チェロ協奏曲第2番ニ長調作品101  
 ベートーヴェン 交響曲第1番ハ長調作品21  
 指揮/菊池 東 チェロ/安田謙一郎

## ●管弦楽の為の高梁川初演発表会 (S55.5.31)

ワーグナー ニュルンベルグのマイスタージンガー  
 前奏曲  
 モーツァルト 交響曲第38番ニ長調「プラーハ」  
 團 伊玖磨 管弦楽の為の高梁川  
 指揮/團 伊玖磨 菊池 東

## ●第6回定期演奏会 (S55.12.7)

ヘンデル 合奏協奏曲 Op6-6  
 モーツァルト オーボエ協奏曲ハ長調  
 ドヴォルザーク 交響曲第9番「新世界より」  
 指揮/堤 俊作 オーボエ/ディーテルム・ヨナス

## ●第7回定期演奏会 (S56.6.9)

モーツァルト デイヴェルティメントニ長調 K136  
 ビゼー アルルの女 第2組曲  
 ベートーヴェン 交響曲第7番イ長調 作品92  
 指揮/早川 正昭

## ●ゴールドブレンドコンサート (S56.9.23)

レスピーギ 交響詩「ローマの松」  
 チマローザ オーボエ協奏曲ハ長調  
 ヴェルディ 歌劇「アイーダ」より凱旋行進曲 他  
 指揮/石丸 寛 オーボエ/小島 葉子  
 ソプラノ/中沢 桂

## ●二期会中・四国支部オペラ公演 (S56.12.13)

モーツァルト オペラ「魔笛」  
 指揮/古谷 誠一

## ●第8回定期演奏会 (S57.6.6)

ベートーヴェン エグモント序曲  
 モーツァルト 交響曲第41番 ジュピター  
 スメタナ 交響詩組曲「わが祖国」より  
 高い城 モルダウ  
 指揮/古谷 誠一

## ●倉敷管弦楽団岡山演奏会 (S57.12.13)

モーツァルト セレナーデ第9番「ポストホルン」  
 シューマン ピアノ協奏曲  
 ドボルザーク 交響曲第8番  
 指揮/菊池 東 ピアノ/田中いづみ

## ●ゴールドブレンドコンサート (S58.4.30)

チャイコフスキー 「くるみ割り人形」より花のワルツ  
 ヴァイオリン協奏曲  
 交響曲第5番  
 指揮/石丸 寛 ヴァイオリン/前橋 汀子

## ●二期会中国支部オペラ公演 (S58.10.6)

モーツァルト オペラ「フィガロの結婚」  
 指揮/古谷 誠一

## ●第9回定期演奏会 (S58.12.11)

モーツァルト 「フィガロの結婚」序曲  
 メンデルスゾーン ヴァイオリン協奏曲ホ短調 作品64  
 ベートーヴェン 交響曲第3番変ホ長調「英雄」  
 指揮/湯浅 卓雄 ヴァイオリン/豊田 弓乃

## ●玉島文化センター落成記念コンサート (S59.6.2)

スッペ 喜歌劇「詩人と農夫」序曲  
 團 伊玖磨 管弦楽の為の高梁川  
 ベートーヴェン 交響曲第5番ハ短調「運命」  
 指揮/菊池 東

# 倉敷第九合唱団

最近、全国各地で地元の人達による第九の演奏会が、盛んになってまいりました。アマチュア合唱団にとってベートーヴェンの第九を歌うということは、1つの夢であり、また、念願でもあります。倉敷でも今年には是非第九をという声が強くなり、倉敷市合唱連盟では、2月に準備委員会を設け、4月からは倉敷管弦楽団と共に実行委員会を組織して、運営に取り組んでまいりました。

倉敷第九合唱団は、倉敷市合唱連盟が主体となり、連盟団員の男性65名、女性170名と、一般公募による男性55名、女性110名の総勢400名という大合唱団であります。一般公募で集った人達は、勿論倉敷市民が殆どであります。が、地域的には倉敷市に限らなかったため東は岡山市か

ら、西は笠岡及び井原からも参加しており、年齢も下は中学生から上は60歳代までと、本当に多彩な顔ぶれとなりました。合唱連盟からは、倉敷と水島の少年少女合唱団を除く9団体（倉敷市民合唱団、川崎製鉄混声合唱団、コスモスコラス、シルバーコーラス、KMフラウエンコール、あざみコーラス、コールフローラ、コールミネネ、コールピクルス）が参加して、倉敷市民による初の第九演奏会を成功させようと、練習に励んできました。

「おお友よ、歌おうではないか。」と始まる歓喜のメロディー。きっと倉敷第九合唱団の団員にそして今日聴きに來られた皆様の心にも深く響く事であらうと思います。

## 倉敷市合唱連盟のあゆみ

昭和39年4月、倉敷市を中心として活躍していた倉敷市民合唱団、三菱重工合唱団、三菱石油水島合唱団、日本興油合唱団などの団体によって倉敷市合唱連盟が結成されました。第1回の合唱祭は昭和36年に倉敷市文化祭の一部として開催されました。第1回のプログラムを見ると、参加団体は水島青年団コーラス部、倉敷倉敷工場男声合唱団、倉敷南合唱団、西学区婦人会合唱団、倉敷ボーカルフォー、倉敷市民合唱団の6団体で、会場は老松小学校の講堂が使用されました。それ以前には、昭和34年に当時、川西町にあった松栄劇場で開催された「音楽と演劇の夕」、35年に万寿小学校の講堂で開催された「合唱と吹奏楽の夕」に倉敷市文化祭の一部として合唱が参加しています。

合唱連盟が結成された当時、ホールらしきもの一つなかった倉敷に、やがて文化センター、ホールが出来、47年には全国的にも指折りの立派な市民会館が落成してからは、市民音楽祭の一般の部として合唱祭が続けられていますので、第1回から数えると今年で24回になります。この市民音楽祭は当時、小学校の講堂を使用して開催さ



第12回倉敷市民音楽祭

れていたPTA主催の小中学校の音楽会と、倉敷市合唱連盟主催の合唱祭を一諸にして市民音楽祭としたもので、第1回と2回の音楽祭はプログラムも、第1部児童生徒音楽会、第2部吹奏楽の部、第3部一般の部（合唱の部）として一日で実施され一般の部は16時30分から演奏されました。第3回からは、学校の部と一般の部とに分け開催日も別の日としました。以後毎年、立川清登、デュークエイセス、友竹正則、中沢桂等のゲストを迎え盛大に開催してまいりました。

また、昭和50年からは毎年7月にアイビースクウェアにおいて、サマーコンサートを開催、市民音楽祭とは異なった、夏の行事として欠かせないものとなっています。

今年は、市民音楽祭も13回を数え、かねてから度々賛助出演をお願いしていた倉敷管弦楽団の第10回定期演奏会を記念して、合唱連盟としても、かねてからの念願であったベートーヴェン作曲の「第九交響曲」を協演でき、合唱連盟結成の目的の一つが達成できたものと、関係者一同、喜んでおります。



サマーコンサート

# 倉敷第九演奏会実行委員会

委員長 菊池 東 (倉敷管弦楽団団長)

副委員長 仁科喜代蔵 (倉敷市合唱連盟理事長)

委員 田辺幹夫 (倉敷管弦楽団運営委員長)

友野良一 ( 〃 運営委員)

陶山容良 ( 〃 〃 )

秋山 啓 (合唱総括委員長)

委員 坂本育男 (合唱総括副委員長)

大原正義 (中国二期会会員)

野口紀生 (合唱総務委員長)

福島 茂 (合唱総務委員)

有木 徹 ( 〃 )

平野隆弘 ( 〃 )

## 倉敷管弦楽団

コンサートマスター／守屋美枝子  
佐藤真理子

### 1stヴァイオリン

○守屋美枝子  
中桐佐知子  
稲田 真理  
山名 良  
中上 裕子  
浅井 直樹  
河村真知子  
出宮 治子  
陶山 容良  
平田 利枝  
越宗 宣子  
吉信 雅庸  
有田 和恵  
△高橋 久子  
\*中村 博仁  
\*江草ゆりあ

### 2ndヴァイオリン

○佐藤真理子  
○木村 啓子  
赤沢 和美  
岡崎 良弘  
勝部万理子

田村 恭子  
三村 卓司  
吉田 精一  
平尾 尚子  
熊沢 智子  
人見 陽子  
△増川 陽子  
\*大井 孝子  
\*角田真木子

### ヴィオラ

○黒任 彰夫  
菊池 東  
中野 隆重  
友野 良一  
武本 克巳  
勝部喜代志  
栗原 健  
西田 寛子  
西山 治美  
須見 綾子  
△板谷 清美  
\*杉山みゆき

### チェロ

○西田 毅雄  
田辺 幹夫  
光延 勢吾  
小原みずほ  
宇野 義雄  
延藤 聡子  
黒田 正典  
井上 良子  
田中 光子  
石渡日出男  
藤原千恵子  
△枘本 辰郎  
△劉 文彰

### コントラバス

○松本 高広  
本屋敷勝信  
安田 友子  
曾我部仁和  
大熊 桂子  
\*松本 佳拡  
\*小野美保子  
\*柴田 文音

### フルート

○坂口 充倫  
松本 直美  
片山 知子  
福島 悦子  
△古川 兼生  
○オーボエ  
○角田 容子  
秋山 慶子  
安田 元子  
\*有道 惇

### クラリネット

○川名 光治  
高杉 玲子  
岡本 あき  
\*川崎 史子

### ファゴット

○稲田 裕彦  
川崎 哲哉  
\*太田 茂樹  
\*佐伯 利之

### ホルン

○吉市 幹雄  
西崎 大修  
板谷 信昭  
\*新田 厚  
\*中原 敏雄

### トランペット

○森田 裕三  
石原 憲  
岡本 卓也  
中桐 実

### トロンボーン

○谷口 一夫  
佐藤 道郎  
\*西岡 忠  
\*野村 昌弘

### 打楽器

○平松 泰一  
陶山 京子  
西岡 啓治  
光井 和味

(○印 パートリーダー  
△印 今回不参加  
\*印 エキストラ)

合唱指導／小山裕章

パート指導者／三宅康一・秋山 啓

永田桂輔・仁科喜代蔵

渡辺かずえ・大原久央子

## 倉敷第九合唱団

練習ピアニスト／守谷里香・篠原由美子

顧問／鈴木 正

### ソプラノ

(一般)  
上田エリ子  
磯崎 洋美  
人見 信子  
三宅 範子  
弓削 明子  
尾関 光子  
永広 光代  
赤須 峰子  
檀浦 和子  
増成かおり

浅野 敬子  
保津久美子  
中原 祐子  
篠塚千栄子  
松本 英子  
高倉 直見  
相磯由美子  
小川 陽子  
瀬戸山博子  
田口 幸  
長崎 綏子  
奥山 洋子

下岡美代子  
佐藤 敦子  
難波美代子  
守屋 幸枝  
犬童 洋子  
藤野 真理  
平松 一子  
染矢 圭子  
妹尾 映子  
佐藤 俊江  
岡部 光恵  
高木 啓子

中村 由香  
松本 清美  
田中久美子  
(フローラ)  
大原久央子  
(あざみ)  
古谷 仁美  
木村 智  
中島久美子  
渡辺マサ子  
村上 道子

長尾千恵子  
中西 恵子  
(KMフラウエン)  
○斎藤 智子  
坪田 京  
長尾 秀  
蓑 淳子  
宮田久美子  
三宅 雅江  
戸板 雅子  
吉田 幸子  
釜風呂美和子

戸部 文  
(コスモス)  
浅野 彬美  
藤木 淑子  
増田 峰子  
三宅 澄子  
内田 和子  
守時万里子  
井上 恵子  
(シルバー)  
松本 弘美  
長谷川純子

- |        |        |         |           |          |        |
|--------|--------|---------|-----------|----------|--------|
| 佐野 紘子  | 早瀬 映子  | 篠浦 智佳子  | 野口 春美     | 西村 彰洋    | 小森 慎次  |
| 古里 静世  | 鳩山 幸子  | 平川 かおる  | 野村 逸子     | 麻田 利彦    | 三宅 聡   |
| 山下 智子  | 新宮 静子  | (あざみ)   | 田中 広子     | 新宮 正裕    | 片岡 宗三  |
| 田中 優子  | 小橋 真理子 | 小川 玉子   | 田崎 瑞穂     | 石黒 毅     | 秋山 齋   |
| 田辺 世里恵 | 木本 清子  | 萩田 昭子   | 中原 正子     | 内田 正美    | 岩出 実   |
| 飯干 かよ子 | 弓削 光子  | 吉川 一恵   | 宇野 フミ子    | 松本 隆司    | 山本 彰   |
| 田村 洋子  | 日岡 千恵子 | 坂田 晃子   | 清原 幸子     | 河原崎 和彦   | 山口 護   |
| 宮 清子   | 澤田 三子  | (シルバー)  | 山本 照子     | 浦池 省二    | 小田 忠史  |
| 近藤 久美  | 中村 和代  | 末松 正子   | 難波 澄江     | 田辺 猛彦    | 山本 雅典  |
| 小林 基子  | 小野田 悦子 | 田中 由美子  | 松川 令子     | 伊藤 桂輔    | 井形 和彦  |
| (ピクルス) | 中塚 典子  | 永田 美知子  | 三好 妙子     | 永田 和夫    | 新谷 勇仁  |
| 穴吹 節子  | 池田 由美  | 柳川 幸子   | 米川 真美     | 篠井 博久    | 松山 知均  |
| 泉 有里子  | 石井 道子  | 堀内 雅子   | 阿尻 美冴     | 日向 昭二    | 板谷 佑児  |
| 内田 匡子  | 橋本 テツ子 | 伊藤 桂子   | 門野 展子     | 中西 文彦    | 田中 勝彦  |
| 金光 民子  | 坂倉 汎子  | 堤 美枝    | 三宅 宜子     | 井川 文彦    | 平井 清志  |
| 川上 能婦子 | 池田 弘美  | 齊藤 明子   | 中村 みつ子    | (川鉄水島)   | 池上 博通  |
| 徳永 久子  | 古市 啓子  | 藤井 秀子   | 藤原 勝代     | 福島 茂     | 守安 智彦  |
| 樋口 洋子  | 郷古 かず  | (倉敷市民)  | 八木 孝子     | 中村 弘一    | 徳田 太郎  |
| 星野 ヒロ子 | 上條 文   | 亀山 文子   | 守谷 ルリ子    | 中瀬 政治    | 馬場 英雄  |
| (川鉄水島) | 平沢 悦子  | 武田 玲子   | 渡辺 保子     | 馬場 修     | 長田 恭尚  |
| 真田 彰子  | 内海 美和子 | 長木 美穂   | 吉田 浩子     | 齊藤 達     | 戸部 俊一  |
| 堀 美夕紀  | 田辺 泰子  | 小山 真理子  | 加藤 浩子     | 瀬戸 恒雄    | 秋山 啓   |
| 篠原 由美子 | 難波 実佐子 | 田主 裕美   | (川鉄水島)    | 日比生 隆一   | 田坪 裕之  |
| 三宅 まゆみ | 金藤 孝子  | 佐藤 かなえ  | 加藤 智子     | 高橋 峻伸    | 萩本 聡機  |
| 大倉 真由美 | 石松 清美  | 菅野 典子   | 菅野 晴美     | (倉敷市民)   | (倉敷市民) |
| (ミンネ)  | 松永 啓子  | 武井 瑞枝   | 江頭 昭子     | 藤南 和将    | 織田 友和  |
| 渡辺 七美  | 難波 由美子 | (コスモス)  | 光枝 恵美子    | 井上 猛司    | 野口 紀生  |
| 坂本 和子  | 櫻井 僚子  | 白神 閑子   | 福井 敏恵     | 平野 隆弘    | 武部 俊明  |
| 渡辺 幸子  | 白井 悦子  | 林 洋子    | 大西 慶子     | 小野 三郎    | 三宅 俊彦  |
| 片岡 瑞穂  | 渡辺 恵子  | 金中 操    | 越智 里美     | 大西 純三    | 大野 隆志  |
| 鈴木 八千恵 | 長尾 晴子  | 小野 郁子   | (ミンネ)     | 柏野 磐太    | 水内 和敬  |
| 岡 弘美   | 花山 桂子  | 高谷 瑠美子  | 小原 京子     | 松永 喜樹    | 光成 康一  |
| 黒田 美香  | 鳥羽 砂千子 | 工藤 恭子   | 竹添 孝子     | 山本 真悟    | (川鉄水島) |
| 浅原 五月  | 田口 美雪  | 森田 和美   | 清水 信子     | (倉敷少年少女) | 有木 徹   |
| 福久 圭子  | 石井 麻里子 | 長谷川 満寿美 | 高橋 多美子    | 鈴鹿 正     | 田宮 優彦  |
| 土屋 民子  | 赤田 卓美  | 横山 真佐子  | 高橋 紹子     | (水島少年少女) | 平川 重信  |
| 斎藤 裕子  | 大岩 範子  | (ピクルス)  | 池田 恵美     | 坂本 育男    | 泉 宏憲   |
| 高橋 みちよ | 高杉 美佳  | 春井 誉    | 西上 貴子     | (川鉄水島)   | 近藤 久憲  |
| 延近 南都子 | 松元 秀子  | 伊五 沢寛子  | 中原 多恵子    | ○有木 徹    | 飯田 永睦  |
| (倉敷市民) | 小野 直美  | 沖本 笙子   | 児玉 葉子     | 田宮 平川    | 丸谷 睦   |
| 安道 雅子  | 三宅 恵子  | 高田 幸子   | (KMフラウエン) | 高田 泉     | 丸山 二郎  |
| 井上 和代  | 上谷 尚美  | 中原 アヤ子  | 渡辺 かずえ    | 近藤 久憲    | 清原 清三  |
| 河野 利恵  | 井山 京   | 中村 佳子   | 河合 タマ子    | 飯田 永睦    | 丸山 二郎  |
| 田中 ミッル | 清水 美穂  | 仁熊 裕子   | 星島 多恵子    | 丸谷 睦     | 清原 清三  |
| 田辺 芳江  | 坂東 裕子  | 宮瀬 小夜子  | 北林 経子     | 丸山 二郎    | 金子 雅彦  |
| 本田 由美  | 大島 久美子 | 矢島 佳子   | 永見 静子     | 丸山 二郎    | 井手 勉   |
| 河崎 こずえ | 田中 晴美  | 辻井 維子   | 渡辺 博子     | 丸山 二郎    | 高橋 弘之  |
| 黒尾 方美  | 荒木 慶子  | 中尾 京子   | 馬場 敦子     | 丸山 二郎    | 増田 浩二  |
| 堀 恭子   | 下村 美代子 | 藤原 千代子  | 児玉 史子     | 丸山 二郎    | (ピクルス) |
| 浜本 倫子  | 武田 朋子  | 三宅 民子   | 大部 節子     | 丸山 二郎    | 仁科 喜代蔵 |
| 佐藤 純子  | 三宅 恵   | 免出 文子   | (テノール)    |          |        |
| 高田 貴美子 | 古川 明子  | 片岡 茂子   | (一般)      |          |        |
| (一般)   | 井上 祥子  | 中島 あつ子  | 林田 一昭     |          |        |
| 小野 典子  | 山根 和子  | (フローラ)  | 松本 健吉     |          |        |
|        |        | 五藤 美子   | 田村 仁      |          |        |

◎印 パートマネージャー  
○印 サブパートマネージャー

倉敷第九演奏会 テレビ放送日

OHK岡山放送

昭和59年12月31日 PM5:00~PM5:55